Dream Of Doll
DreamHeadVer. 4
KAORU

撮影対象となった人形

今回の撮影対象になった人形の紹介です。

Ｄ．Ｏ．Ｄ．というドールメーカーのキャスト製の球体関節人形
DreamHeadVer.4＋D.O.I.ボディという組み合わせ
我が家での名前は「薫（KAORU)」

ヒトガタ・画像Ｉにて撮影した樹（ITHUKI)

身長：約７０ｃｍ

今回は室内撮影のみです。

６月２３日：文章を付けました。

顔の傷

コイツを見ていると
どうして顔に傷が付いたのだろうと時々思う。
なんとなく、なるべくしてなったような気がするんだけど……

鎖

薫のネックレスは私が作ったもので
実は「樹（ITHUKI)」のものと全く同じに作ってある。
どういう関係なのかは解らない。
鎖は絆でもあり、縛るものでもあり、だからこそ
彼らは揃って首に環の鎖をつけている。

見えない瞼

薫の傷
理由はどうであれ、この形に付けられたのだ。
傷つけられたとき、彼が瞼を閉じたなら
きっと瞼にも傷はあるはずで
凶器を見据えていたなら片目に傷があるはずで
だけど薫の瞳は傷がない。

視線の先

何を見ていて、何を考えているのか
薫ほど解らないヤツはいない。
ふと視線がぶつかりあうと逃げてしまう。
意外とマッスグに視線を向けてくるものだから
どういう顔をしていたらイイのかが解らない。

笑み

素直じゃない笑みだと思う。
これが素直な笑みなのなら
きっと「悪人に見える」と言われる声は本物で
だけど、そういうヤツにも思えないんだ。
凶器を顔で受け止める薫だから。

薄闇の中で

薫の意外な表情
下から仰ぎ見るとイイヤツのような気がする。
上から視点では見えない薫の表情
薄闇の中が似合うのは、きっと日の下を嫌うから。
絶対なる天体、太陽の視線を薫は嫌うのだと思う。

存在

存在感はありすぎる。
なのに、どうしてだろう。
ふらりと消えそうな気がしてならない。
危険なのは薫の前に立つことではなく
薫の存在なんじゃあないかと思うことがある。

得物

薫に刃物を持たせるのは気がすすまない。
ただの金属の棒
それだけで充分に、十全に
薫は二つ目の傷を防ぐと思うのだ。
もう傷つかなくてもいいだろう？

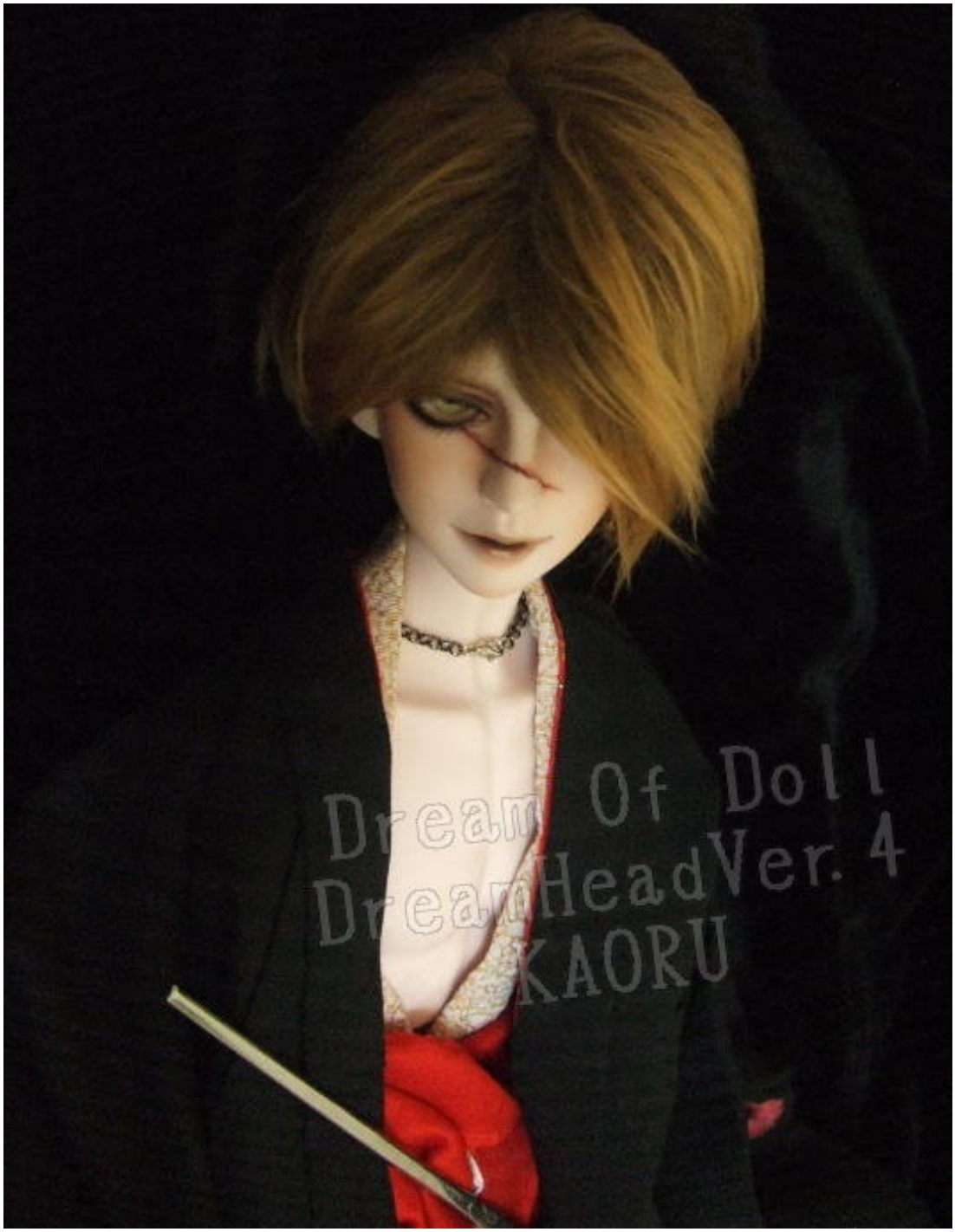
差し出す手

コイツに差し出された手を
握り返す事が出来るのかと無意味な自問をしてみる。
DreamHead Ver.4から「薫」になったとき
どういう形であれヤツの運命に関わっているのだから。

魅力

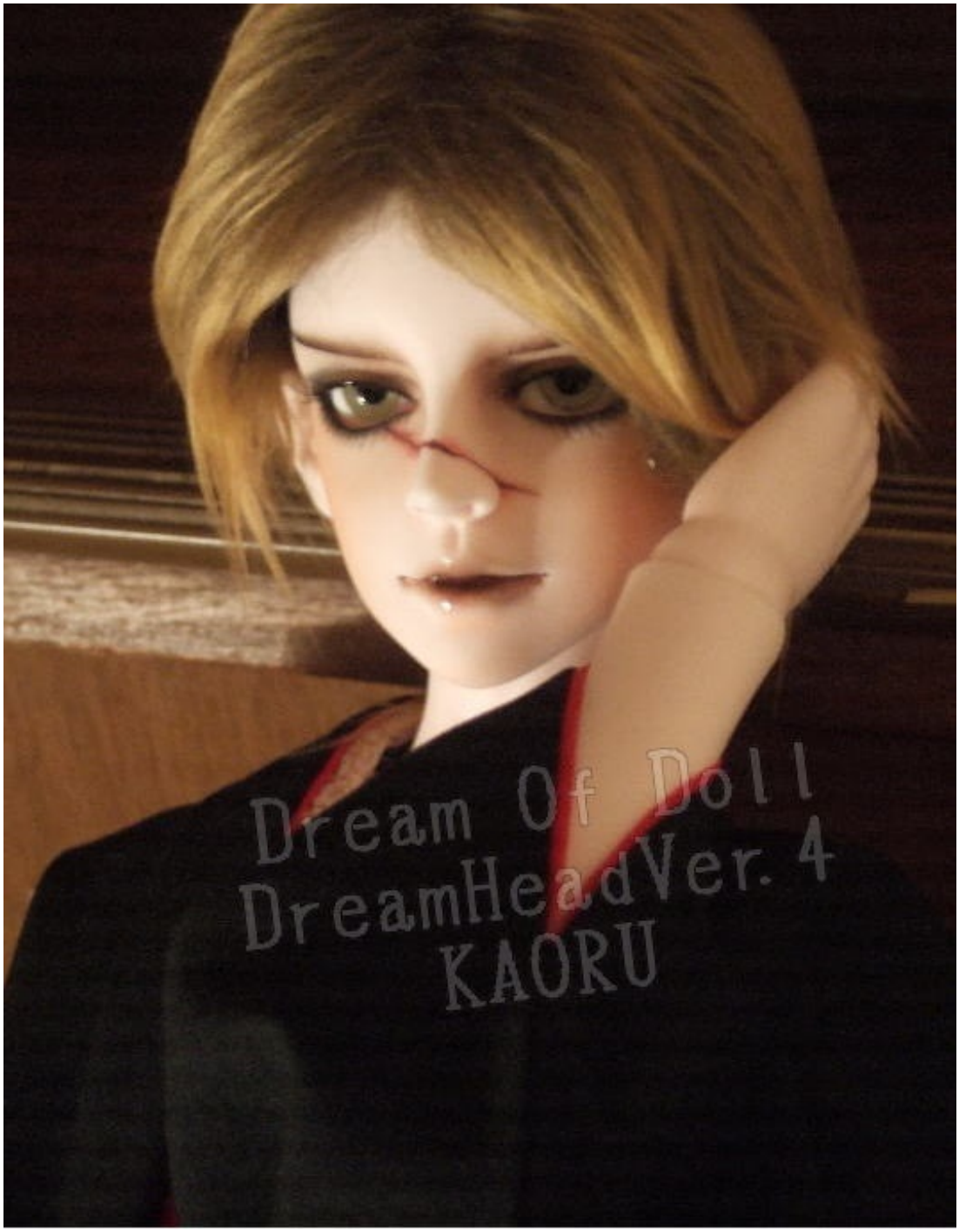
薫ってさ
逃げないヤツだと思うんだよ。
それは妄想なんだけど
けれど
顔に傷つけられても不適に哂う。
不器用なイイヤツなんだと思うんだよ。
きっと命をはってでも哂って傷つけられるような
強さとは程遠い笑顔なんだと思えてならないんだ。

沈む



薫はヒトガタで
心も魂も無いはずなのに
どうして、急に寂しそうにするんだろう。
どこかの女の着物姿で
ただの金属の棒きれ片手に
ふらりと出て行ってしまいそうな
有り得ない思いにかられるときがある。

揺らぐ



蝋燭の灯火の前
線香花火の煌き
薫のガラスの瞳は
そんな明かりばかりをみている気がするんだ。

風もなく

風もないのに、ふわりと髪が流れる。
薫が動いたような錯覚に囚われる。
首の鎖が無機質な音を立てる。
ただの幻聴だと思っても
やはり薫の視線は気になるのだ。
何処を見て、何を見て、何を考えているんだろう。

黒い振袖

明らかに女物の黒い振袖
片袖と裾一面に広がる牡丹の花
赤い長襦袢も女のものなのに
着慣れているかのように見えるから戸惑う。

陽炎

薫に過去はない。
だけど何かあった気がする。
そして陽炎のように
過去に帰りそうな気がして
薫の存在を確かめる。

見えない素顔

ヒトガタなのだ。
その表情の下の素を晒す事は容易だ。
けれど、それはヒトガタの素であって
「薫」の素顔じゃあないと感じている。

邪気

無邪気だなんて思わない。
何か企んでいる方がコイツらしくていい。
無防備に見せて
きっと危険を孕んでいるのだと思う。
それは妄想でしかなくても
「薫」が「薫」である事実があるのだから。

関係

まったく同じカタチの体を持つ二人
違うのは頭だけの二人
きっと似ているくせに、違う表現をするんだ。

追う視線

明かすなら
二人の瞳は違うように見えるけれど
どちらも緑なのだ。
ただ、薫と違って樹の瞳は
ガラスのくせに
少しだけ追ってくる。
その視線は、わずかに人を追う。
それが薫と樹の気性の差なんだと思う。

囁くように

樹と薫
何かを囁きあっているのだとしても
それは妄想で、空想で
だからこそ
彼らの囁きは心を捉えるのだと思う。

その名

存在するのは明らかで
けれど彼らはヒトガタでしかなく
けれど
けれども
ヒトを象った彼らは
ヒトを模しているはずなんだから
そう、だから彼らはヒトガタだけど
「樹」「薫」と名付けて呼ぶのだ。

二人の中には何もない。
球体関節人形の中は伽藍堂
だけど
見えない何かがあるのだと思う。

晒す

何か目論んでいそうで、企んでいそうで
だけど、その素肌を晒したところで
薫は何も持っていない。
せいぜい
私の作った鎖があるだけだ。
首に巻きついた金属の鎖は
樹と対になっている。

薫

悪巧みが得意そうだけど
決して屈強な身体を持っているわけではないのだ。
赤みの強い白肌
日の下を嫌う薫
二つ目の傷は受けなくてもいい。

ヒトガタ・画像 Ⅳ
Dream of Do Ⅰ Ⅰ
DreamHead Ver.1&Ver.4

http://p.booklog.jp/book/27504

著者：猫屋雑猫
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/nekoyazathuneko/profile

発行所：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社paperboy&co.

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/27504

ブクログのパブー本棚へ入れる
http://booklog.jp/puboo/book/27504